神金小学校

豊かな心と確かな学力の育成

― 読書活動，言語活動，国語の授業づくりを通して，伝え合う力（コミュニケーション能力・言語力）を育てる ―

I　研究の内容

1　研究の具体的内容と方法

（1）読書活動，言語活動についての研修会（指導主事招聘），指導法の研究

（2）国語科における伝え合う力を育てる指導法の研究と授業実践

（3）公開研究会への参加

（4）実践部会（読書・言語）と授業部会（低・高）の二部会制で研究を進める。

（5）一人一実践を行う。

2　研究実践

（1）読書活動部会

読書活動部会は，本校児童の読書意欲を引き出し，読書力の向上を図ることをねらいとして取り組んだ。なかでも，読書の幅を広げることに焦点を当て，そのための手だて，実践方法を研究した。

ア　読書に関する実態調査（アンケート６月）

イ　おすすめの本を選び購入（アンケートの結果から）

ウ　おすすめの本の紹介

エ　各学年の読書指導の実践

・読み聞かせ，パネルシアター，うちわシアター，アニマシオン，児童の選んだおすすめの本の紹介，読書郵便，読書発表会（キャッチコピー）など。

（2）言語活動部会

子ども達の言語を豊かにするために，週一回，朝学習の時間を設け，コミュニケーション能力・言語力を育てる取り組みについて研究した。

ア　言語活動に関するアンケート調査（７月と２月に実施）

イ　教科（国語を中心に）の学習で取り組んでいる内容

・音読，詩の暗唱，群読，相手に応じた言葉遣い，視写，口径，声の大きさ，短歌，俳句，川柳など

ウ　学校生活の中で取り組んでいる内容

・学校行事等における感想発表，校内掲示や教室環境の工夫，挨拶や感謝の言葉

エ　朝の会や帰りの会，学活等で取り組んでいる内容

・スピーチなど

オ　朝の１０分間の言語活動（毎週金曜日）に取り組んでいる内容

・かるたあそび，しりとりあそび，早口言葉，絵かき唄，ことわざ，音読，群読，言葉リレーあそび，川柳，漢字の遊び唄，言葉遊び，反対言葉，こそあど言葉，ドリル学習，四文字熟語，慣用句，漢字すくいゲーム，擬声語，擬態語など

（3）授業研究

ア　5年「伝え合って考えよう」（10月）　　授業者：田邉博幸教諭

児童の「話すこと・聞くこと」に関する知識や技能を高めることをねらいとして実践した授業である。目的や意図，場に応じて的確に話す力や声量，速さ，言葉遣いなど言語事項に関する部分など，児童の力を伸ばすことができた。また，事前・事後のアンケートからも聞き手を意識した話し方，自分の考えと比べながら聞こうとする態度が育ってきたことが伺えた。子ども達が自信を持って生き生きと発表していた。

イ　2年「友だちに分かるように話そう」（11月）授業者：村田裕美教諭

この授業で目指す言語能力は，自分が相手に分かるように話す力・話題に沿って聞く力である。「あったらいいなこんなもの」を一人一人が考え発表したが，お互いの意見や考えに対して感想を言ったりする場面が多く見られ，意欲的に学習に取り組んでいた。自己評価や相互評価などを取り入れたことにより，より意識して聞いたり話したりすることができるようになった。

Ⅱ　成果と課題

○　読書や言語に関するアンケートから，本校児童の実態を把握することができた。

○　各学年で発達段階やクラスの実態に応じて読書指導を行った結果，読書意欲の向上と読書内容の幅の拡がりが見られるようになった。

○　まだ，読書意欲や読書量には，個人差がある。また，読書傾向にも偏りがあるので今後も読書指導を継続して行っていく必要がある。

○　朝の言語活動は，初年度の取り組みであったが，興味や関心を持って意欲的に取り組めたと思う。言語に関する知識や経験を豊かにする機会にもなった。

○　言語活動の取り組みが主体性を持った発展的な学習活動へとつながった。

○　言語活動の取り組みの内容は初年度なので，系統性を持った内容となりにくかった。今後、系統性のある指導内容を作成していく必要がある。

○　昨年度作った系統表をもとに，各学年の指導ポイントを絞って国語の授業実践を行った。相手を意識して分かるように発表したり，質問や意見を考えながら主体的に聞こうとしたりする態度が育ってきた。

○　二つの研究授業を通して，授業案の書き方はもとより，より有効な指導法を探ることができた。また，一人一実践することで，研究を共有することができた。

Ⅲ　成果物

○　話すこと・聞くことについてのアンケート用紙

○　言語活動に関するアンケート用紙

○　相互評価カード・振り返りカード　　（研究主任　　林　淳美）